

各位

2019年7月11日（木）

桜丘高等学校 生徒会

孫便りの会・生徒一同

～今日で東日本大震災から8年4カ月が経過～

東日本大震災が発生して8年4カ月が経過し、東日本大震災以降も熊本・北大阪・北海道胆振等、日本各地で発生した大きな地震に加え、台風・豪雪・広島市土砂災害・西日本豪雨・猛暑・御嶽山噴火・台風襲来とたて続いた様々な自然災害で多くの方々の尊い命が失われました。

このような自然災害に対して、常日頃からとっさの時に出来ることは何なのかを常に頭に置きながら生活することが大切であることが、今問われているのではないのでしょうか？私たちはこれまで交流してきた神戸や気仙沼のお爺ちゃん、お婆ちゃんたちから、生きる知恵を訪問するたびに学んできました。あつてはならないことですが、今を生きる者としては「災害は来るかもしれない」ではなく「必ず来る」という心構えでいなければならないこと。それと、「私は大丈夫」といった心の正常性バイアスは捨てること。そして常に状況を判断して、危険と察知したらすぐに避難行動をとることです。立て続けに起きた様々な自然災害が教えてくれたことをしっかりと守りながら、教訓として自分の命を守ることを第一に考えて行動して欲しいと思います。

～震災発生年の9月の気仙沼を振り返ると！～



東日本大震災発生年の9月に出かけた第2回気仙沼復興支援行動ですが、この時には、震災で流されてしまった写真洗浄を中心にして活動。泥まみれの写真を洗浄している所に、やってくる被災者の方々が、写真や流された様々な思い出の品を見つけて「ありがとうございます」との言葉と、時には涙を浮かべて嬉しそうに持っていかれる姿に感動しながら活動したことを思い出します。そして、今は無き仮設住宅で



「田原凧」を作りお爺ちゃん・お婆ちゃんたちと上げた事や、市内に打ち上げられた漁船については、震災遺構とするか議論があったものの結局取り壊された事など、決して忘れてはならない事として、今ではそれぞれの心にしっかりと刻まれています。